1. 開会

2. 委嘱状交付

3. 市長挨拶（要旨）

先日総務省が国勢調査の結果を発表しました。この5年間で豊橋は600人人口が減りました。人口が減少しているのは日本全体のことですが、全国の1700以上ある市町村の中で300以上の市町村の人口が増えています。例えば、子育て支援を一生懸命やっている、医療が充実している、働き場所がある、楽しい施設があるなど様々な理由があると思います。その理由をぜひ皆さんに研究してもらいたいと思いますが、この豊橋が元気になり、もう一回存在感を発揮できるまちとなるためには、若者や女性を引き付けることができるまちになることが最大のポイントだと思います。そのために、これからの時代を生きる若者委員には、ぜひまちづくりの当事者として、このまちを変え、自分たちがより魅力のあるまちにしていく、という強い想いをもって、この豊橋わかば議会に参加していただきたいと思います。皆さんがいろんな自由闊達な議論を通じ、素晴らしい提案をしていただき、皆さん自身の夢や想いが形になるまちづくりの楽しさも実感をしていただきたいと思います。また、わかば議会を通じて、皆さんがこの豊橋に愛情をもつ機会となれば素晴らしいなと思っています。

4. 豊橋わかば議会議長選出、副議長指名

議長は、山本 朋采委員に決定しました。

副議長は、光松 寧音委員及び宮内 裕生委員に決定しました。

5. 所信表明（要旨）

池上 ふらの委員

この豊橋市は様々な国の人たちと触れ合うことができることが1つの大きな魅力であると私は考えています。せっかく様々な国の文化と交流できるこのまちに住んでいるので、今までの経験を活かして外国の方と日本人がさらに住みやすいまちにできるように、さらに住みやすいまちを作っていけるように全力で頑張りたいと思います。

石黒 慧水委員

若者が政治に興味がない、興味関心がないといわれるのは、1つは若者が選挙に行かず、選挙をめんどうくさいと言って選挙に行かないといったこと、もう1つは行動したいけど、行動の仕方が分からない、行動するのが難しい、そういう風に考えてしまって、諦めてしまう若者が多くいると思います。やはり若者はまちをこうしたいという気持ちがないわけではなく、行動できない行動の仕方が分からないといった点にあるのだと思います。そうした意見を若者の代表としてどんどんと吸い上げていき、皆さんにお伝えして最後の政策提案

の時によりよい提案をしていきたいと思っています。

伊藤 彩花委員

私の学校ではSDGsへの取り組みが活発に行われています。高校で話しあったことをわかば議会で沢山発表し、貢献できたらなと思っています。今学校で私は交通安全、豊橋に住む外国人の方々など住みやすいまちづくりについてグループの子たちと話し合っています。わかば議会で話し合ったことを市や県、日本全体に伝えていくために、YouTube など世界中の人が見れるもので、発信して、いろんな人に見てもらいたいと思いました。

伊藤 有菜委員

私はこのわかば議会を通して豊橋を女性に一番モテるまちにしたいと考えています。私は一番モテる人とはとても手が届きやすそうで、魅力的な人、だと思ふのです。これを人ではなく、豊橋市に置き換えて私は考えました。女性から信頼される、そして女性が心から安心して愛することができるそのようなまちにしていきたいと考えています。

伊藤 理紗委員

私が取り組んでみたいことは、モノが循環していく公的サービスの提案です。モノを気軽に寄付できる窓口を市内にいくつか設置することを提案したいです。例えば、豊橋駅や市役所に「お下がりポスト」を設置して、子どもが成長して不要になった靴や洋服、おもちゃを気軽に寄付してもらえるサービスを提供したいです。子育て世帯にとって住みやすい街を作るための取り組みになると思います。

浦山 結彩委員

このコロナ禍で浮き彫りになってきたのが、女性の生理についての貧困です。豊橋だけでなく、日本の議員、議会において女性議員の割合が少なく、また高齢化も進みつつあるので、触れられてこなかったセンシティブな内容ではありますが、豊橋は名古屋圏へ通学通勤するような大学生や社会人も多いと思うので、女性の社会増を招くためには、より女性に寄り添ったそんな政策が必要なのではと思いました。

岡山 楓果委員

現在の問題点として交通事故が多い、ということに着目しました。私はこの一年を通して、この問題を始めとし様々な視点から豊橋市をよくしていきたいと思っています。私の高校では総合学習の一環でSDGsについて調べ、クラスのみなどと話し合っ、実践できることがないか考えている最中です。学校で学んだ知識をこの議会で活かし、またこの議会で学んだことを学校で共有出来たらと思っています。

釜賀 清澄委員

提案したいことが主に2つあります。1つは530運動のあり方の改編についてです。エコキャップ改修活動やフードバンクボランティアなどの3Rに含まれる活動も530運動と表し、呼びかけることができれば、より持続可能な社会につなげることがより有効なのではないかと考えました。2つめは聴覚障害者の支援です。ヘルプマークのようなものを作り、宣伝することができれば、と考えています。豊橋市を誰もが過ごしやすいようなまちにしたいと思っているので福祉などの活動にも取り組みたいと思っています。

熊崎 萌夏委員

私は「知る」をスローガンに豊橋わかば議会に参加したいと考えています。豊橋市は多くの取り組みを行っています。しかし、その取り組み内容を知っている市民は多くはありません。今日の情報社会について知ることは生きる力になります。特に若者世代が豊橋について知るためにどのように情報を伝えるべきか考えていきます。未来の豊橋を担う若者たちが豊橋を知ることが豊橋の発展につながるからです。豊橋市民の皆さまが豊橋について知ることを目標に誠心誠意努めます。

酒井 美緒委員

私たちと同世代の若者に豊橋の市政をより身近なものに感じてもらうことです。私たちと同世代の若者にわかば議会の存在を知ってもらうことで、私たち若者にも市政を変えるチャンスがある、私たちの声を反映させることができる、と知ってもらいたいと思っています。若い世代が市政に関心を持つ、ということが他の世代の方にも伝われば、より幅広い世代の声を反映することができ、よりよい市政につながっていくと考えています。

鈴木 陽菜委員

豊橋市はとても魅力あふれる素晴らしいまちです。しかし、今まで生活してきた中で気が付いた豊橋市の改善すべき点も沢山あります。この気づきをどのようにしたら豊橋のために活かせるか、自分も豊橋市に何か貢献したい、と考えていた時に知ったのが豊橋わかば議会でした。私はこのまちに住む誰もがここに住み続けたいと思う、そして市外の人にもここに住みたいと思ってもらえるそんな豊橋市にしたいと思っています。

鈴木 雄天委員

私は、安心安全は全ての基本だと思っています。わかば議会はより市民目線の提案ができると思います。そこで、交通事故を減らす提案がしたいと思っています。

柘植 友朗委員

私の目標は、豊橋市民の皆さまに豊橋を好きになって欲しいということです。豊橋のこと

あまり好きではないという人も豊橋の良いところをいくつも知れば、豊橋のことを好きになるのではないかなと考えています。豊橋を好きになるというのは、例えば豊橋の人口が増えるだとか、豊橋が綺麗なまちになるなどの根源であると考えています。

豊田 菜々美委員

私は16歳の時より、豊橋南高等学校応援団団員として沢山の方の応援活動をさせていただきました。応援活動を通して学んだことは数知れませんが、一番大切なことは「人とのつながり」だと知りました。そこでわかば委員では出会った方との縁を大切に、人とのつながりによってたくさんの豊橋の人の心をつなぎ留めたいと思います。

藤井 花帆委員

私は今回この議会で教育、そしてまちの活性化を目標にしていきたいと思います。私は現在豊橋市で無料学習塾の講師としてボランティア、そして豊田高専の学生として過疎地域の空き家を利用した地域共同体のコアとして活動しています。この活動のノウハウを活かして豊橋をより笑顔あふれる子育て教育ができる環境、そしていろんなシャッター商店街をもっと人が集まる場所にしていきたいと思っています。

藤井 琢也委員

私は学生が活発に活動できる政策を提案したく、わかば委員に立候補しました。私は専門性を持つ学生が力を合わせることで地域や社会、企業の課題を解決できると考えています。例えば、SDGsの1つである食品ロスを減らすことを目的に私は今、賞味期限を再定義するという活動を行いたいと考えています。これは購入した後に、賞味期限を基準に商品を捨てていますが、実際は発生している菌の数や他の指標で判断すべきだと考えているからです。このように課題を定義し、共に解決する人を探すプラットフォームや支援する制度があれば、学生の専門性を活かせるだけでなく、社会に出た後により近いイメージの仕事ができ、優秀な学生が集まると考えています。企業側としては、課題解決を安価に行え、資本によるサービス売り上げの向上につながると考えています。市としては人口増加、税収の増加につながると思います。また得られる効果は一過性のものではなく、仮に学生が企業に就職した後、よい技術やサービスを関わりのあった豊橋の企業にも紹介する機会にもつながると考えています。

藤谷 咲花委員

私は特に若者に対しての企画を考えたいと思っています。豊橋市の未来を担っていく若者に豊橋市をもっと知ってもらいたいからです。Instagramの開設、ZOOMでの観光施設の紹介をしたいと思っています。若者に一番影響力のあるSNSのInstagramをうまく活用することで多くの豊橋市の若者の世代に豊橋市の素晴らしいところを知ってもら

らえると思うからです。

光松 寧音副議長

私は普段大学生目線の少子化対策をテーマに学生が主体となって行う事業に参加しており、地域の子育て支援にとっても興味があります。一部の人だけでなく、もっと多くの人に子育てしやすい子育て支援を活用してもらいたいと考え、私たち若者が何か手助けできるのではないかと考えました。施設を利用するための情報を伝える手段としてSNSを活用したり、車がなくて移動が困難なお母さんたちに向けてリモートを活用した新たな子育て支援などいろんな視点から子育てについて考えてみたいと思っています。

豊橋の魅力私たち若者の新たな視点からより多くの人に向けて、発信していくと同時に豊橋に住む人々に愛着と誇りを持ってもらえるようなまちづくりをしていけたらと思っています。

宮内 裕生副議長

私がこのわかば議会を通じて成し遂げたいことは、児童養護施設で巣立った人たちが安心して住める場所を作ることです。また、これを成し遂げるにあたってSDGsの3番目の目標である「すべての人に健康と福祉を」推進していきたいと考えております。

山本 朋采議長

私は地域政策学部所属しており、地域を見つめ、地域を活かすをコンセプトに地域産業や地域文化を勉強しています。大学で学んだことを豊橋で活かし、行動できないかと思っていた時にこの豊橋わかば議会に出会いました。ガクラボやまちなか図書館などの交流スペースが増えることにより、新たな人との出会いや知識文化が広がっていき、豊橋に新しい風が吹くと思います。豊橋の魅力を発信し、豊橋をもっと好きになる追い風になるようなわかば議会にしたいと思います。

6. 市議会議長挨拶（要旨）

先ほどから皆さんの所信表明を聞かせていただきました。こういうこともやりたい、ああいうことも考えていきたいという皆さんの熱意があつてこそ、物事を進めていけると思います。しっかり議論して、皆さんがどうしても豊橋に住みたい、来たいと思えるような提案が出てくるといいかなと思います。よく若者は政治参加に興味がないと言いますが、50人もの若者から応募があり、豊橋の政治、政策に、興味があるということは豊橋の将来は明るいと思います。この1年だけではなく、今後の豊橋、日本、子どものためにどうしたらいいか考え続け豊橋のために頑張る、といった気概を持ってこの議会に参加して欲しいと思います。また、コロナ禍で大変な状況ではありますが、そういったものを跳ね返し、このわかば議会ですっかりと議論を尽くして、素晴らしい政策を出してくれるとありがたいなと思

います。

7. 閉会